

## 標準原価計算 練習問題

浜松製作所は標準原価計算を採用している。下記の1～3の資料に基づいて、次の(1)～(3)の各差異を計算しなさい。ただし、製造間接費は変動予算を用いて3分法で分析し、その際、能率差異は標準配賦率を用いて計算する方法によること。なお解答欄の( )内には借方差異か貸方差異を記入すること。

- (1) 直接材料費の総差異と、数量差異および価格差異
- (2) 直接労務費の総差異と、時間差異および賃率差異
- (3) 製造間接費の総差異と、予算差異、能率差異および操業度差異

### 資料

#### 1. 標準原価カード (製品 A)

直接材料費	20 円/kg	30kg	600 円
直接労務費	250 円/時	2 時間	500 円
製造間接費	300 円/時	2 時間	600 円
製品 A1 個当たりの標準製造原価			<u>1,700 円</u>

#### 2. 製造間接費予算

変動費率 160 円/時      固定費 (月額) 30,800 円

#### 3. 当月の実績値

直接材料費      74,800 円      (22 円/kg × 3,400kg)  
 直接労務費      54,600 円      (260 円/時 × 210 時間)  
 製造間接費      67,000 円  
 実際生産量      110 個

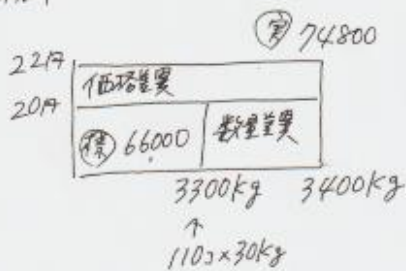
### 解答欄

(1)	総 差 異 =	円 (      )
	数 量 差 異 =	円 (      )
	価 格 差 異 =	円 (      )
(2)	総 差 異 =	円 (      )
	時 間 差 異 =	円 (      )
	賃 率 差 異 =	円 (      )
(3)	総 差 異 =	円 (      )
	予 算 差 異 =	円 (      )
	能 率 差 異 =	円 (      )
	操 業 度 差 異 =	円 (      )

解答

(1)	總差異 =	8,800 円 (借方差異)
	數量差異 =	2,000 円 (借方差異)
	價格差異 =	6,800 円 (借方差異)
(2)	總差異 =	400 円 (貸方差異)
	時間差異 =	2,500 円 (貸方差異)
	賃率差異 =	2,100 円 (借方差異)
(3)	總差異 =	1,000 円 (借方差異)
	予算差異 =	2,600 円 (借方差異)
	能率差異 =	3,000 円 (貸方差異)
	操業度差異 =	1,400 円 (借方差異)

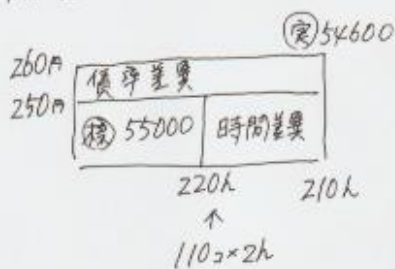
材料



材料 総差異

⑧ 66000 - ⑦ 74800 = Δ8800  
 數量差異  
 (3300kg - 3400kg) × 20円 = Δ2000  
 價格差異  
 (20円 - 22円) × 3400kg = Δ6800

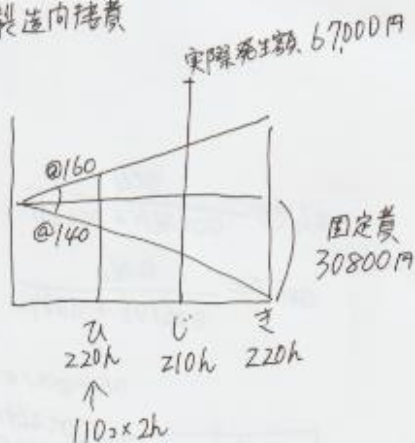
労務費



労務費 総差異

⑫ 55000 - ⑩ 54600 = +400  
 時間差異  
 (220h - 210h) × 250円 = +2500  
 賃率差異  
 (250円 - 260円) × 210h = Δ2100

製造間接費



製造間接費 総差異

⑲ 300 × 220h - 67000 = Δ1000  
 予算差異  
 ⑮ 160 × 210h + 30800 - 67000 = Δ2600  
 能率差異  
 (220h - 210h) × ⑮ 300 = 3000  
 標準率差異  
 (210h - 220h) × ⑯ 140 = Δ1400